

謹賀新年 ～令和五年新春対談～

あけましておめでとうございます。市長に就任して3年目を迎えます。昨年はいつも新鮮な気持ちで市政を運営していきたいとの思いで「新」という漢字でスタートし、市民の皆様の声を直接お聞きし、スピード感を重視して様々な事業に取り組んでまいりました。今年は、コロナに関する考え方も変化し、私たちを取り巻く社会環境も大きく変化していく中、市政運営の基本的な考えである『7つの柱』に沿って施策を進めるとともに、行財政改革を着実にやり、未来につながる投資もしっかりと進め「飛躍」の年としてまいります。

市政を運営にするにあたって、まず優先すべきことは、**市民の安全・安心を守る**ことです。

この度、山口誓司大阪はびきの医療センター院長、藤井睦子大阪府健康医療部長、金銅宏親羽曳野市議会議員、西元宗一大阪府議会議員と健康で安心なまちづくりについて語り合いました。市・市議会・大阪府が連携、協力し市民の皆様と共に健康寿命を延ばすまちを築いてまいりたいと存じます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

羽曳野市長 **山入端 創**



大阪はびきの医療センター 令和5年5月オープン



イメージ





【令和5年5月「大阪はびきの医療センター」がオープン】

■山入端：大阪はびきの医療センターでは、呼吸器アレルギー感染症等の専門病院としての役割はもちろんのこと、地域で必要とされる小児科、周産期医療に注力をお願いしており、来年度からは総合病院としての機能を拡充していただくということで、市民の皆様の安全・安心を守る上で大変心強く本当にありがとうございます。

令和5年5月にオープンする新病院をご紹介します。

■山口：新病院は、6階建ての構造で、1階が結核の病棟、2階がメインエントランスや外来、放射線・検査室、3階に手術室やICU(集中治療室)、HCU(高度治療室)、透析室、4階に小児科や産婦人科、NICU(新生児集中治療室)、5階が感染症病床や一般病床、6階にリハビリテーション科やレストラン、患者さん向けの図書室などを配置しております。

羽曳野の豊かな自然をイメージして設計しており、森や橘、桃、空、風、大地などをモチーフに、外

来や病棟の壁紙を色分けしています。羽曳野市民の方により親近感を持っていただきたいと思い、市の花の桃や、市の木の橘を病棟や部屋の名前に使わせてもらっています。

■山入端：健康で安心なまちづくりをめざす上でとても待ち遠しいですね。病院の概要がよくわかりました。では医療機能はどのようになるのですか。

【大阪はびきの医療センターの医療機能】

■山口：これまでの呼吸器・アレルギーの専門医療に加えまして、がん、循環器疾患、消化器疾患、整形外科領域の充実を図っていきたいと考えております。

■山入端：新病院はどのような病院をめざされるのでしょうか。

■山口：地域の医療機関と連携して圏域全体の医療の質の向上を図ることで、市民の皆さんの健康寿命を延ばし、信頼される病院となるよう、これまで以上に努力してまいります。

■山入端：ありがとうございます。

山口院長から病院について様々なご紹介がございましたが、府立病院機構の設立団体である大阪府として、新病院に期待されることを教えてください。

【大阪府として新病院に期待すること】

■藤井：呼吸器アレルギー感染症の専門性をさらに向上させていただくことや地域の拠点病院としての機能を向上させるということを期待しています。

■山入端：地域の拠点病院として特にどのようなことを期待されているのでしょうか。

■藤井：例えば周産期医療では年間約1,000分娩、南河内のおおよそ3分の1を支えていただいています。周産期医療や小児の救急をはじめ地域の皆さんが、いざというときに頼りになる医療機関としての機能を発揮いただき、地域の拠点病院として、住民の皆さんから信頼されるのはもちろんですが、地域の医療機関からも信頼されて、高度な治療が必要になった

藤井 睦子
Fujii Mutsuko
大阪府健康医療部
部長



山口 誓司
Yamaguchi Seiji
大阪はびきの医療
センター 院長



場合に、はびきの医療センターに
お願いしようと思っただけの
病院として、その機能を向上させ
ることを強く期待しています。

■山入端：市民の皆様からの期待が
高いことを、本当に肌で感じており
ました。山口院長、藤井部長から
のお話をお聞きして、市民の期待
にお応えいただける病院というこ
とが認識できました。西元府議、
金銅議長は、新病院についてどの
ような感想をお持ちでしょうか。

■西元：南河内でも有数の分娩実
績を誇る施設でもありますし、呼
吸器疾患、アレルギー疾患におい
ても大阪府の中核的役割を果たし
ていただいている病院だと思っ
ております。開院後には、地域での様々
なニーズも出てくると思います。

地域医療の充実は、暮らしてい
く上での安心に繋がるとしてい
ますので、私も地元府議として、
これからも地域の声をしっかりと
お伺いし、また反映できるように
努めてまいります。

■金銅：私はもともと羽曳野病院
という病院名に親しみがあつたも
のですから、それが呼吸器・アレ
ルギー医療センターになったとき
に、羽曳野の名前がなくなるんだ

と本当に寂しい気持ちになったん
です。大阪はびきの医療センターと
いうことでもう一度、「はびきの」の
名前を使っただいて、本当に喜
んでいます。

さて、羽曳野市を含む南河内の医
療体制について、関心や期待が高
まっているところ、近畿大学病院が
南河内医療圏（羽曳野市を含む6市
2町1村の医療地域）から移転した
後の救急医療体制はどのようになる
のか市民の方からの声も聞こえてき
ます。

■山入端：そうなんです。市民の方
からそういった声を耳にします。

藤井部長そのことについてはいか
がでしょうか。

■藤井：近畿大学病院が堺市へ移
転しても24時間体制で受け入れ、か
つ、高度な診療への対応は、引き続
き実施してもらえることになってお
ります。羽曳野市の場合、救急車を
呼んでいただいた時の搬送時間・距
離が、近畿大学病院の移転後の場所
でも、道路事情の関係でほぼ変わら
ない、もしくは、若干短縮されると
いうことがございます。

また、近畿大学病院の移転後は、
大阪はびきの医療センターには、大
いに機能を発揮していただき、南河
内医療圏での地域医療を担っていた

だきたいと考えています。

【新型コロナウイルス感染症対応】

■山入端：南河内医療圏において
さらなる医療体制の充実を図って
いただきますよう、よろしくお願
いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染
症はまだ収束を見通せない状況
にあり、市民の皆様には日頃から
感染防止対策にご協力をいただい
ているところです。本市では、感
染防止に向け、ワクチンの迅速な
接種をはじめ、キャッシュレス決
済ポイントの還元事業なども行っ
てまいりました。ワクチン接種に
おいては、医師会や大阪はびきの
医療センターを含む医療機関をは
じめ、関係者の皆様、民間事業者
等の皆様のご尽力により、安全か
つスムーズに進めてくることがで
きております。

昨年のゴールデンウィークは大
阪府内で3年ぶりに行動規制のな
い大型連休となり、本市でも3年
ぶりに市民フェスティバルを開催
し、市民の皆様の楽しそうな笑顔
を見ると、本当によかったなとい
うふうに思っています。

新型コロナウイルスの対応につ
いて市民の皆様へ呼びかけをお願
いできますでしょうか。

■藤井：感染対策などで、多くの

住民の皆さんに大変なご協力をいただきましたことを御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行になるのではないかと懸念されています。

住民の皆さんには、まず一つ目、非常に感染規模が大きくなる一方で、最初の3年前のころの症状よりも、重症化率、あるいは死亡率が大きくなっていきます。症状の軽い方が多いという感染症になっておりますので、お一人おひとりの感染対策と解熱剤等の常備薬と、みずから検査をしていただきます検査キット、あるいは感染したときの数日間の食料の備えをお願いしたいと思っています。

65歳以上の方、基礎疾患をお持ちの方、妊婦さん等のリスクが高い方に病院受診していただき、リスクが低い方は感染した場合でも、ご自分で、検査キットで検査いただき、自宅療養をお願いすることを想定しています。自宅療養される方にウェブ上のオンライン診療を確実に受けていただく体制を整えています。

社会経済活動をできるだけ止めない形で、かつ、できるだけ医療逼迫を起こさない形でコロナの波に臨んでいきたいというのが今の大阪府の考え方です。

■山入端：新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行ということで、医療機関の皆様が混乱することを避けるために、我々もしっかりと呼びかけを行っていきたくて思っております。

大阪府により、0歳から9歳までの子どもたちにコロナの検査キットを送る取り組みも行って

ております。羽曳野市では、中学校3年生、高校3年生相当の方と65歳以上の方には、インフルエンザのワクチン接種を無償化しています。

大阪はびきの医療センターの院長として、新型コロナウイルスへの対策について、市民の皆様へアナウンスをお願いします。

■山口：新病院には新型コロナウイルスなど感染症対応の病棟も備えております。

我々のところに入院される患者さんは、高齢の方が結構多いんですが、実はまだワクチンを1回も打っていない方が意外とおられるんです。重症化する方がおられますので、今はオミクロン対応になっておりますし、ワクチン接種はしっかりとお願いしたいと思います。

■山入端：山口院長、藤井部長、現在の対応や、市民の皆様への呼びかけありがとうございます。

今後も、大阪はびきの医療センターをはじめとする医療機関、その他関係機関等との連携を密に図りながら、引き続き感染対策には万全を期し、その時点その時点で正確な情報に基づき、羽曳野市民の皆様への命と暮らしを守ることを最優先に、安全・安心そして健康なまちづくりを目指していきたいと考えております。本日はありがとうございました。

山入端 創
Yamanoha Hajime
羽曳野市長



金銅 宏親
Kondou Hirochika
羽曳野市議会議員



大阪府立病院機構
はびきの医療センター

西元 宗一
Nishimoto Souichi
大阪府議会議員



対談中は、感染対策のためマスク着用にて実施しました。